

コチョウランの育て方

1 こちょうらん (ファレノプシス / Phalaenopsis)

東南アジア各地に広く分布し、日中はこもれ日がさしこみ、朝夕には霧がたちこめるような、河川や海岸に近い場所の、大きな樹木に付着して生活しています。

2 育て方

温度

18 から30 位。冬の間は夜温を15 以上に保ってください。

湿度

室内の湿度を無理に上げる必要はありません。そよ風を好みます。ただし、温風機や冷房機のそばはかわきやすいので注意してください。

日光

高温で直射日光を当て続けると、「葉やけ」をおこします。明るい場所におき、直射光がさすようであればレースのカーテンをひいてください。(遮光率50~70%)

水やり

花のある時は、ミズゴケの表面がかわいたら。ただし水をきらすと花が早くしぼんだり、つぼみが落ちたりします。花のない時は、ミズゴケの表面が完全にかわいてから。いずれもたっぷりやり、かんかくをしっかりとるようにします。水が多すぎると、「根腐れ」をおこします。また室温と同じくらいの水が良いでしょう。受け皿には水をためないように注意して下さい。

花が終わったら

花芽を残してきること2番花が咲くこともありますが、花芽をつけ根から残さず切り取って株を養生させることをおすすめします。

植替え

化粧鉢の場合は、花芽を切って1ヶ月間は水をひかえめにしながら管理し、新しい根が顔を出したら、一株ごとに4から4.5号の素焼き鉢に、ミズゴケでかためにしっかりと植えてください。

素焼き鉢の場合は花が終わり株が成長期にはいる5月ころが最適です。ミズゴケはいたむので、2年に1回は植替えをしましょう。(鉢の大きさは5号位までがよい)

下葉が次々と黄色くなって落ちる時は、「根腐れ」の可能性がります。そのときはいたんだ根を切り取って少し小さめの素焼き鉢に植替え、水をひかえめに新しい根を出させるようにしてください。

いずれも植替え後1週間は水やりをひかえます。

肥料

規定の倍率にうすめた液肥を春から夏の成長期にやります。濃い液肥は「根腐れ」をおこします。また植替え後1ヶ月間は根がいたんでるのでひかえます。花が咲いている時期は必要ありません。市販のハイポネックス原液を2,000倍(2リットルのペットボトルに1cc)にして、水やりの代わりに与えて下さい。

株が元気なのに花芽がでない時

コチョウランは通常、秋になって気温が下がるとそれに反応して花芽が出、冬に開花します。株が元気なのに花芽がでない時は、夜温が16~18 になる場所に株を移して様子を見て下さい。南向きの窓側から北向き・東向きの窓側に。5 程度温度差をつけて、コチョウランに刺激を与えるのが理想です。

花芽が出たら

顔を出した花芽が新葉よりも上にでたら、針金などを支柱にして誘引してください。この時洗濯バサミを使う(穴に花芽を通し、先端で支柱をかませる)と便利です。支柱はまっすぐに立て、花芽が光に反応してカーブしてきたら、一番下のつぼみから10cm位のところに洗濯バサミをつけて支点とすると、花がきれいなカーブをえがきます。また花芽が鉢から大きく外れて伸びてしまったときはピンタイを使ってすこしずつ支柱に誘引してやりましょう。開花時にエチレングス(老化ホルモン)を発生させる石油ポータブルストーブ、自動車等の排ガス、果物類、植物残渣等の近くに置くと開花期間が短くなります。